

平成19年度（2007年度）金沢大学大学院法務研究科入学試験問題

試験科目	刑 法
------	-----

※ 問題1と問題2の解答は、別々の解答用紙に記入すること。

問題1 Xは、友人A、B、C及びD女と路上で雑談していたところ、酩酊して通りかかったGと口論になり、GがD女の長い髪を掴んで引き回す等の乱暴を始めたので、手を放させる為にXら4名はGを殴る蹴るなどした。そこで、Gもこれに応戦しつつ、D女の髪を掴んだまま道路向側の駐車場入口付近まで引っ張っていったので、Xらは追いかけて殴る蹴るなどして、漸くGはDの髪から手を放したが、Xらに「馬鹿野郎」等と言って応戦する氣勢を示しつつ駐車場奥に移動していったので、Xらはほぼ一団となってこれを追った。その間BやAがGに殴りかかったが、いずれもCに制止されたものの、その直後、AがGの顔面を手拳で殴打し、そのためGは転倒して頭蓋骨骨折等の重傷を負った。その際、Xは、自ら暴行を加えていないが、Aの暴行を制止することもなかった。

Xの罪責を論ぜよ。

問題2 甲は、ビデオレンタル業を営むY店の会員になろうとしたが、その手続に必要な、身分を証明するものを持っていなかったことから、知人Xから自動車運転免許証を借り、これを改ざんして提出することを考えた。甲は、同運転免許証に貼付された知人Xの写真の上に甲の写真を貼り付けた上、その氏名欄に、パソコンで甲の氏名を印字した紙片を貼り付けた。そして、これを自己名義の入会申込書と共に自宅のファクシミリでY店に送信しようとしたが、同ファクシミリの不具合のため、送信できなかった。

そこで、甲は、約1か月後、ファクシミリを修復した上、これを使用して再度同様の送信を試みた。今度はY店に送信できたので、写真も含めてすべて鮮明にY店のファクシミリ紙に複写された。ところが、その日は同店の休業日だったため、これが同店の関係者の目に触れないまま、同夜に起きた大地震によってすべてが灰塵となった。

甲の罪責を論ぜよ。